

2, 2 試験研究

2.2.1 題目 安定した黒釉の試験

寺 尾 作次郎

肥 後 盛 英

〔目的〕苗代川や竜門司で使用中の飴から黒までの釉は窯条件の相異特に熟成温度の僅かな差で釉の呈色に変化が生じ易いので、先づ釉の熔融点を巾の広いものに改良する目的で2、3の試験をした。

No. 1 白サツマ原土…30杯

雑 木 灰…45℃

ワ ラ 灰…25℃

前田酸化鉄…15℃

No. 2 指 宿 粘 土…35杯

ワ ラ 灰…30℃

竜門司青粉…5℃

酸 化 鉄…15℃

酸化マンガシ…3℃

酸化コバルト…2℃

(No. 3) (No. 4)

No. 3~No. 4 前田酸化鉄…15杯 20杯

番 号	1 号	2 号	3 号	4 号	5 号	6 号	備 考
配合品名							
草 牟 田 土	50	50	50	50	55	60	数字は「杯」 含鉄鉍物
桜 島 熔 岩	20						
竜 門 司 青 粉		20					
苗代川 2級バン			20	10			
同 黄 砂				10			
真 幸 黄 土					15		
大口鉍山黄土						10	
呈 色	褐 色 垂下状	飴 色 流下状	褐 色 流下状	黒褐色 流下状	青ソバ系	黄褐色	

(以上は何れも雑木灰30杯使用、焼成温度S.K.9番強)
結果は5号が最も良く1号・3号は充分使用出来る。

2.2.3. 題目 三彩用緑釉の試験

寺 尾 作次郎

肥 後 盛 英

松 木 灰…30℃ 40℃

ワ ラ 灰…25℃ 20℃

加世田白土…30℃ 40℃

(No. 1) S.K. 10番酸化焼成で垂下状鉄砂系となる。
S.K. 7~9番に適し白、黒生地共に良く特に黒生地味茶碗に良好。

(No. 2) S.K. 7~9番還元焰焼成で漆黒色を呈し釉調最も美しい。

(No. 3) S.K. 10番焼成の結果釉は流動して黒色を呈し試験体の突起面は赤紫色の結晶斑を生ず、

(No. 4) 黒生地に施しS.K. 7~10番で焼成したが何れも漆黒色で貫入なく充分使用出来る。

2.2.2. 題目 改良ソバ釉の試験

寺 尾 作次郎

肥 後 盛 英

〔目的〕苗代川で従来使用中のソバ釉の基礎となつてゐる「バン」の代替として含鉄鉍物を配合して試験を行つた。

〔目的〕竜門司焼の三彩用緑釉はその基礎釉の組成については一応の結論を得たが、銅呈色の変化が著しいので発色剤の安定した配合割合を決定するために試験を行つた。